日本人口学会2013年度・第１回東日本地域部会

日本人口学会2013年度第１回東日本地域部会は，2013年10月26日（土），東北学院大学（仙台市）において開催された．午後の一般報告では，本研究所の職員が次の研究報告を行った．

「大都市圏居住者のライスステージ別居住地」……清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）
「人口高齢化の線形モデル」……鈴木　透（国立社会保障・人口問題研究所）

これに先立ち，午前中には東北地理学会と共催で，シンポジウム「東北地方の将来人口」が開かれた．こちらでも，本研究所の職員が次の報告を行った．

「『日本の地域別将来推計人口（平成25年３月推計）』の概要
—(1)推計の枠組みと手法について—」 ……小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
「『日本の地域別将来推計人口（平成25年３月推計）』の概要
—(2)東北地方を中心とする結果について—」 ……山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）

（鈴木　透　記）

将来人口推計に関するユーロスタット—国連欧州経済委員会共催国際会議

2013年10月29日（火）から10月31日（木）の３日間の日程で，イタリア・ローマにおいて，ユーロスタット（Eurostat），国連欧州経済委員会（UNCEC）の共催により，将来人口推計に関する国際会議（The Joint Eurostat-UNECE Work Session on Demographic Projections）（以下，国際推計会議と呼ぶ）が開かれた．同会議は，1994年より不定期に開催されており，今回が第６回目の開催となった．今回の会議には，当研究所から岩澤，菅，是川，福田（筆者）の４名が参加した．

国際推計会議は，(1)人口推計の利用方法と利用の実際についての意見交換，(2)人口推計に関する最新の手法の紹介，(3)政策担当者と人口学者，推計担当者の間の密な意見交換を目的として開催されている．今回の会議には，33カ国，５国際機関から約150名の参加があり，２つの基調講演とテーマ別に設定された14の研究報告セッションにて48の口頭報告が行われた．報告者は，第一線の研究者の他，それぞれの国や機関の推計担当者であり，その質・量ともに大変充実したものであった．

国際推計会議初日の午前中は，ユーロスタット，国連欧州経済委員会，イタリア統計局の各代表による開会の辞に始まり，年金・介護・医療等の分野での政策立案における将来人口推計の不可欠な役割と，精度の高い人口推計の実施とその有効な活用における政策部局と学術部門とのさらなる連携の必要性が強調された．続いて，オスロ大学の Nico Keilman 博士による“Probabilistic Demographic Projections”ならびにルント大学の Tommy Bengtsson 博士による“Population Ageing: A Threat to the Welfare State?”と題された２つの基調講演と質疑応答が行われた．

初日午後以降には，14のセッション（「人口移動の将来仮定」「死亡の将来仮定」「出生の将来仮定」「将来人口推計の活用」「EU 地域外の将来人口推計」「将来人口推計における確率手法」「世帯推計」「人口の持続可能性とマクロ経済における仮定との整合性」「ベイズ統計学的接近Ⅰ・Ⅱ」「多地域推計」「性，年齢別推計を超えて：追加的な人口属性への拡張」「性，年齢，教育水準別人口推計Ⅰ・Ⅱ」）において，研究報告と質疑応答が行われた．

３日間という限られた開催期間ではあったが，将来人口推計に関する最新の研究動向を網羅したセッ